

自治体名	和歌山県 紀の川市
------	-----------

女性の健康づくり対策の概要

乳がんや子宮がんの女性特有のがん予防を中心に、ライフサイクルに応じた健康づくりに取り組むことが重要である。特に、更年期ではホルモンバランスの変化に伴い、心身とも大きな影響を受け、高齢期にも波及する危険がある。これらのことから、男性と異なった女性特有の健康課題に沿った、きめ細やかな健康づくり、健康管理体制が必要であり、様々な関係機関等と連携しながら事業展開を図る。

自治体の特徴

紀の川市は和歌山県の北部に位置し、大阪府と隣接している。北は和泉山脈、南は紀伊山地を控え、この間を東西に一級河川紀ノ川が貫流している。平成17年に5町合併しており、比較的面積の広い市となっている。人口構成については高齢化がすすんでおり、人口は全体的に減少傾向である。農業が盛んで、出荷量日本一をほこる果物もある。

人口構成 (H22.3.31現在)

	総数	男	女
人	68307	32567	35740
割合(%)			
15歳未満	8721	4515	4206
15~64歳	59586	28052	31534
65歳以上	17177	7156	10021
75歳以上	8902	3322	5580
85歳以上	2472	669	1803

女性に関する健康課題

平成20年度の女性の特定健診受診率は36.2%と高値であり、県平均を上回っている。健診結果より、女性のメタボリックシンドローム該当及び予備群は14.6%であり、県平均と同程度であった。またGPTおよびHbA1cの有所見者の割合は県平均より高く、特にHbA1cが7.0以上と高値の人が多くみられた。

がん検診の受診率は、乳がん検診は39.2%、子宮がん検診18.7%である。乳がん検診については、集団検診、個別検診ともに実施しており、受診機会も多く、また無料であるため受診率は高くなっている。しかし子宮がん検診については、個別検診のみであり、申込み者中の受診者数が27.3%と他の検診にくらべて低値となっている。子宮がん検診については受診率向上のための啓発が必要かと考えられる。

女性特有のがん検診についてはH21年度より導入しているが、クーポン券を利用して受診した者はまだまだ少ない。この検診に限っては、市外の医療機関でも受診できるようにしているが、もともと市の検診も無料でしているため、検診受診につながるような意識変化にはつながらなかつたように思われる。

事業費(千円)

(1) 女性の健康づくりに関する事業(総額)	48,638
(2) 報告事業(再掲)	0

様式3

事業名	紀の川市ピンクリボンキャンペーン普及啓発事業				
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 健康教育	<input type="checkbox"/> 健康手帳の交付	<input type="checkbox"/> 健康相談	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の普及	<input checked="" type="checkbox"/> 啓発普及
事業費（千円）	1,000				

事業目的

本市は、世界で初めて全身麻酔による乳がん摘出術に成功した華岡青洲生誕の地であり、その偉業を地域に継承し、乳がん撲滅を目指すべく、自己検診法の普及をはじめとした啓発活動を展開し、乳がんの早期発見、早期治療、乳がん検診の受診率向上を図る。

また、地域がん診療連携拠点病院との連携により、那賀地方の医療体制の強化および、検診従事者の質的向上を図る。

事業対象

20歳以上の女性、関係団体、医療機関等

事業実施体制・展開

平成20年6月に「紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部」を設置。

実行委員35名、幹部会員17名で構成し、事務局は市が担当。

- ・実行委員会（年8回）開催し、事業計画立案、計画実施のための会議・学習会を実施。
- ・市実施各イベントに参加し、関係団体にも協力を得て、自己検診法の普及、乳がんに関するアンケート調査、ピンクリボンキャンペーン活動のPR、募金活動（啓発グッズを作成販売）を実施。
- ・検診の精度を高めるため、関係医師を対象に乳房超音波講習会を「日本乳腺甲状腺超音波診断会議教育委員会（JABTS）」並びに「日本乳がん検診学会研修委員会」と共催しての講習会を開催。
- ・市民に対する乳がん検診普及講演会の実施
- ・検査技師・医師を対象に乳腺画像研修会を開催
- ・集団検診時、乳がん検診受診者に自己検診法の説明を実施

事業目標・評価項目 及び その結果

- ・ 参加者へのアンケート調査
- ・ 実行委員会8回／年 地域住民へのイベントに開催し、企画、打ち合わせ、事業報告等実施
- ・ 団体主催・共催による研修会 関係団体対象1回、医師対象 2回、検査技師対象 1回
- ・ 団体主催・共催による講演会 市民対象 3回
- ・ 研修会、講演会以外のイベント参加等の活動 6回

事業の工夫点

現時点の活動の主体は行政であるが、いずれは参加者がその主体を担っていただけるよう考えています。

そのため、活動費用についても現時点は市の補助金を活用しているが、各種啓発グッズを作製し、募金活動でご協力いただいたその善意を活用できればと考えています。

なお、啓発の結果、募金活動は市民に広く浸透し、多数ご協力いただいております。

事業の効果についての評価・考察

- ① 乳がん検診受診率は、H19 年度 36%、H20 年度 39.2%、H21 年度 41.2% と上昇傾向にある。これらは、乳がん検診の PR、自己検診法の指導、講演会開催等の普及啓発活動による効果であると考える。
- ② 地域住民に対する講演会に限らず、乳がん検診に携わる医師、検査技師を対象とした講習会・研修会を開催することで、乳がん検診の精度向上および、指導者レベルの医師確保につながった。
- ③ 様々なイベントを企画・実施することにより、多くの活動団体が交流し情報を共有することで、地域全体でピンクリボンキャンペーン啓発に取り組むための基盤づくりができたと考える。

今後の課題

啓発活動等により、乳がん検診の受診率は向上してきたが、さらに地域住民が安心して検診受診できるよう検診機関の精度の向上、検診体制の充実をめざした活動が必要である。

ホームページ	http://www.city.kinokawa.lg.jp
照会先	和歌山県 紀の川市 保健福祉部 健康推進課 0736-77-0829

事業評価	(自己評価)	
①活動内容	4	参加団体が自主の団体活動の許す範囲で最大限新たな活動を展開している。
②独創性	3	参加団体は産官学の方面から参加協力いただき多種多様の意見を反映している。
③普遍性	3	乳がんに撲滅に対する思いは、誰しも願うものでありその目的の大筋は変わらないと考える
④将来性	3	この活動を通じ、乳がんだけではなくあらゆる癌検診の啓発につなげることができる。
⑤効果度	5	受診率の推移でも分るように、市民に検診の必要性が浸透してきている。
⑥信頼度	3	行政に関わる団体も多数参加いただき、信頼という面から考えればあると考える。

